



# 米の母の御薦め

日本人は生命の噴火山上に生活して居る様なものだ。衛生學者は云つて居りますが、まことに謂はれないことではないのであります。

近代日本人の文化は益々向上してまゐりましたが、是れに反して主食品たる白米は化學的の見地から致し、ますます非文明不榮養になり日本人の始どが白米病に侵されて居ると申しまして過言ではないのであります。

従つて不知不識の中に體質は減退し、體格は矮少に死亡率は高率に進みつゝあることは否認出来ない事實であります。

其處食玄米食、胚芽米問題が擡頭して參ります。然し玄米には澱粉を包む糠及びゼラチンが多量に含まれてあります、このゼラチンのために不消化を來すことは彼の震災當時の玄米食の經驗によつて明らかであります。

又胚芽米に致しましては胚芽の不消化であることは顯微鏡検査に依つて認められて居ります。

殊に文化生活の吾等が直ちに白米から玄米、胚芽米に移る事は趣味嗜好に非常な變化を生じ耐へがたいことでもあります。

片倉が精密なる化學と近代學說とを根據として創製致しました「米の母」は多年片倉製糸紡績株式會社従業員五萬有餘名に實驗の結果、非常なる効果を收めて居りますが「米の母」茶匙一杯(約六グラム)を一升の飯米に投入なせば玄米の含む凡ての要素の三倍を含有することなるのみならず「カルチウム」を合せて調劑してありますから、水道の水に最も缺乏して居るカルチウムをも補ふに充分であります。

「米の母」を投入した飯米は非常に美味にして食慾を増進し、光澤を良くし香氣が高く、恰も新米の感があります。

所謂理想的文化に浴する主食と謂ふことが出来ると思ひます。

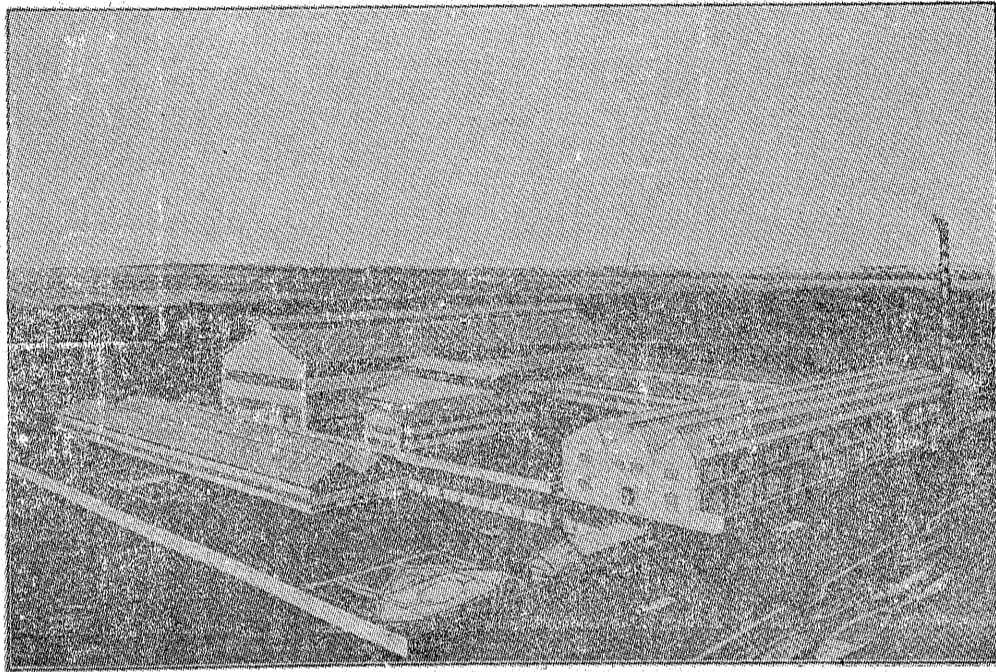
## 米の母製造發賣元 片倉榮養化學研究所

## 榮養素米の母に就て

東京帝國大學教授 醫學博士 二木謙吉

國民榮養に關しては余はなるまで中間的救濟策として兼ねてより完全なる不損失で其の白米等によりて來るにして且つ不變質なる食物べき大害をば幾分軽減する即ち生きたる又は生きのよの目的を以て極めて新鮮な

片倉榮養化學研究所及附屬工場全景



天然の食物を攝らざるべし糖より製出せられたる諸からざることを主張するも種有効成分を適當に配合しおのれ共若し久時の習慣上たる片倉化學研究所製米の白米、半搗米、胚芽米の如母なる製品を適當なる分量き重要成分の損失多き且つ炊飯時白米等混じて使用變質せる不完全食を主食とするは蓋し當を得たることを速かに完全なる方法なるを信するものなり玄米食に改むること不可能依つて之を推奨す

※ ※ ※

## 東京帝國大學教授醫學博士 二木謙三先生外 各科專門二十博士御推獎

特許

# 日本人の養榮素米の母

## 分析表

「ビタミン」並「アミノ酸」	一、六三%
ケフアリン(燻脂質)	〇、五三%
カルチウム	六、二四%
オキシ脂肪酸	一三、八〇%
糖	三五、九六%
其他ノ含水炭素	三八、三五%
有機磷「フイテン」及鐵分	三、五一%
カリウム等の無機成分	

### 使用法

大人一日三、七瓦  
十五才以下七才迄  
七才以下四才迄  
四才以下二才迄  
二才以下

(添付の一匙量)

飯米を最も美味には 白米一升に、添付の二匙量が適當です。即ち大人一日五合食するにすれば、(三、〇瓦)量に相當します。

水加減をなす時投入し、上下をよくかき混ぜ御使用下さい。

水加減火加減は普通でよろしいです。

### 注文の葉

- 米の母は、全國藥店、特約販賣店、百貨店等で販賣して居ります。
- 萬一品切の場合は發賣元へ直接御用命願ひます送費は當所負擔で急送申し上げます。
- 定價表は左の通りであります。
- 代金は凡て前金にて願ひます。
- 御送金方法は振替口座御利用が一番御便利で且御安心です。
- 其際は振替用紙通信欄へ御住所御明記願ひます。
- 以上の事を間違なき様御願ひ申し上げます。

容量	代金	内地	送地
六〇瓦	五十錢	朝鮮、樺太、臺灣	四十二錢
一二〇瓦	九十錢	南洋、南滿洲	四十二錢
三〇〇瓦	二圓		四十九錢
六〇〇瓦	三圓六十錢		六十二錢

東京市京橋區月島東伸通り七丁目三番地  
製造販賣元 片倉榮養化學研究所

片倉 勝 衛  
電話京橋65七三九四番  
振替口座東京三三八二二番

### 學界の諸權威から寄せられた

## 米の母推奨の

聲を聞き下さい

理學博士 村上増雄先生

(前略)果物や野菜が、薬(略)今片倉養化研究所の  
でなく、肉やパンが薬でな『米の母』の創製主旨を見  
い様に、その本来の意味に、玄米の精白による  
おいて、ビタミンは、之イタミン等の有効成分を、  
等食物中の一養養素にすぎ白米へ還元して常用せしめ  
ず、アスベリンやミグレミンとするにことを知り、極  
ンと全く使命を異にするべき時宜に適用して好舉であ  
物である、即ちビタミンの思ひ、(略)附屬工場  
は食物中の一成分として攝完備せる装置を見るに及び  
取すべきであつて、之を特安心して常用出來得べきで  
別にとり離して、薬用とすると信ずる  
べきではない筈である

醫學博士 櫻井政男先生

養養素『米の母』は養養般家庭殊に病者に大なる福  
素として理想的なると共に音をもちたらしめるものなり  
米飯を美味とする點等、一

逓信省簡易保險局健康相談所

醫學博士 野口靜一先生

『米の母』の分析表に示さし得るものと信ず、又本養  
る、如く、人體に必要な養養素を入れたる米飯粥は、  
數種の養養素を含有する理其味極めて良く、一般家庭  
想的養養素なり、殊に胃及び病院等にて使用するに  
タミンの含有量多く、胃適當なるものなり  
タミン缺乏症を充分に防禦

東北大學理學部教授

理學博士 藤瀬新一郎先生

東洋特有の風土病と云はする結果、ビタミンBを  
れた脚氣の如き、米を精白失ふことに基くことは、今

日誰も疑はないのである學研究所に於て玄米有効化  
脚氣の豫防乃至治療に當つ學成分たるビタミンを主  
て、玄米や胚芽米の常食として含有し、之に配する  
醫學者より推奨せられるに隣脂質、カルチウム等を  
雖も、吾人今日の味覺は、充分に含みたる養養劑が創  
到底日常の食用を許さない製せられ、しかも之を藥用  
吾々化學者はこの難點をいせす日常の白米に混じて  
うすればよいかと云ふ問題何等の手間も要せず、炊飯  
の時々考へさせられた、恰すればよいと云ふ企てに於  
度此時にあつて片倉養化では實に敬服の多はない

醫學博士 内山圭吾先生

片倉の養養素『米の母』を有して居るので白米食が吾  
試用的結果、先づ米飯の人の常食として廢されぬ  
味が良くなる事は確である限り本劑は其の缺陷を補ふ  
又分析表はよればビタミンに最も有効なものと思  
ン其の他種々の養養素を合

中村病院院長

醫學博士 中村信郎先生

(前略)要は人間に完全食を、現今様の諸成分を含有  
を攝らせて國民保健の向上する『米の母』で白米飯を  
を圖らんとする外に何物も玄米飯に近からしめんとす  
ない、然し乍ら永い間の習る企は國民保健上極めて  
慣によつて白米を全廢する有意義のことである  
と云ふこともまた困難であ

慶應大學醫學部

理學博士 有馬純三先生

脚氣、其他の白米病の治とて眞に有益なる當を得  
療に、や酢母からとつた事實である、(中略)胃  
ビタミンBを用ひて効をタミン製劑として立派に治  
奏する事は衆知の事である療に用ゆる事も出来る筈で  
が、片倉養化化學研究所がある、子供の家庭の炊  
百尺竿頭更に一步を進めて飯劑として殊に推奨さるべ  
白米病の完全な豫防を企てて  
たる事は、現代の日本人に

理學博士 小竹無二雄先生

(前略)今や片倉養化化學他の點良好であつて、白米  
研究所が、玄米の精白中に混じて炊くに米の味も優  
失ふ部分より、纖維及び脂、兩三ヶ月試みるに梅雨  
肪等の不消化物並に不味物時の身軀の倦怠等を防ぎ得  
質を除き、『ビタミンB』で玄米を食するよりも味等  
並に其他の養養素を、日常の點に於て格段の差異を認  
の常食中に加へて白米病をめる事が出來た其他に列舉  
豫防せんとする企あるを聞せられた特色を考へるの外に  
其舉の極めて當を得たる置いても誠に時宜を得たる  
事を信するものである、而考案なりと思はれる  
して其製品を試みるに味其

東京淺草病院院長

醫學博士 長尾恒介先生

養養素『米の母』は精白殊に又『米の母』を使用せ  
米として失はれたる貴重なる米飯粥等は美味にして食  
成分を十分に含有し、更に慾を促進するが故病院等に  
人體に必要なカルシウム於て使用するに最も適當な  
分を含有するが故に病者に最も適当  
使用する理想的養養素なり  
以下次號掲載

## 日本國民を救ふ『米の母』

『米の母』は、之等國民一の言葉を用ひますと養養効  
般の養養缺陷を救ひ白米常果の何重奏と申すべき誠  
食により生ずる前に述べた日本人にピッタリ適する驚  
様な凡ゆる病氣を豫防し撲滅的偉力を持つ養養劑で  
減すべく創製されたものであります。  
ありまして白米常食者必須今日迄の藥品としての養養  
のビタミン及びカルチウ 劑の如く、一家の中の一人  
以外、頭腦の疲勞を防ぐか二人が、高い養養を拂つ  
燐脂質、血色素製造に必需で、一日に數度も用ひねは  
の鐵分カリウム、其他多種ならぬと云ふ様なものでな  
の有効成分を含有してあり、御飯を炊くとき、一寸  
ます、而も米飯そのものに投じ込む『白の母』の一匙  
は味を興へ、香りをよくし、か二匙かが、老人、壯者乳  
バリを増し、腐敗を防ぎ更幼兒等々一家全員の健康を  
に消化を促進する、今流行保障し、

脚氣、胃腸障礙、呼吸器疾患、發育不良、血脈亢進、頭腦倦怠、神經疲勞の諸症に對し卓抜なる効果を現すのであります

明日とはいはず即刻御試用武夫さへ戀には心柔かく其の間の働き天下何者が是に若く可看よ力山を抜く項羽の虞氏の訣別を精忠日を貫く義貞の句當内侍に於ける豈醉狂の戲れならむや  
太功記十段目に又祝言さへもすまぬ内討死するとは曲がないわしや何ぼうでも殺しはせぬ  
と初菊が鏡に涙ぐ涙の雨雪中に惱む浦里が絶命の詞豈りならん哉  
年寒うして松の翠の操も知られ必死に追りし曉に餘所ならぬ露の情の分量こそ命なれ、是等の戀をして迷と云はが世上何事か迷ひならざるものあらん  
戀は思案の外とは畢竟我等野暮天の言ならんのみ

## 都々逸

古川浩民

なまけもの寝てざやお錢は取れぬじやないか  
起きて働けなまけもの目覺めさんせよ勤めの時  
今朝も遅刻かなまけもの

雑詠 浩民

正札はなほ割引の値なる十八初婚と申せ  
氣がねしていと這入りす手術室  
庇の半増何を思ふ

## 戀愛觀

古川浩民

人間に戀愛の情あるは天賦の性なり、自然なり、是れあるが故に世界は常に生氣を保ち、是があるがために人生より戀愛を取去らんか世は乾燥無味となるべし、人は土偶と一般の趣味があらむ、何の光澤があらむ

片倉生保命險

**當選御禮**

謹啓今回の町村會議員改選に際しては不肖當選の榮冠を擔ひ候事は是れ偏に各位の熱烈なる御援助に外ならざるべく茲に厚く御禮申上候

**蓬田村**

村員議員

生上阿蓬二完澤大瀬遠宗部  
田遠本和藤像阿  
目野部田松像村田谷藤像阿  
忠卯德品四 豊貞辰 金貞  
術之 衛之  
藏門助吉郎主松藏二清光三

**眞野村**

村員議員

岡宇谷字但相鎌梅田阿酒西  
佐佐野野原田澤中部井安  
清見津見野野原田澤中部井安  
太源寅昌竹 廣藤菊 三重次  
郎助記喜郎正衛助衛美義信郎

**熱鹽村**

村員議員

小遠横上遠爪遠遠荒遠渡遠  
林藤山野藤生藤藤木藤邊藤  
慶千源正寅善久光文多源千代  
代喜次一八八太人次仲吾久

**上岡村**

村員議員

皆横渡早林杉白村猪遠山坂  
川田邊川 本土井狩藤田本  
干 爲嘉勇重一仁元尙六梅  
城榮助吉喜吉郎助近衛郎吉

**小高町**

町會議員

天田石石三草小鳥杉柴鹽今牛小加鈴古吉  
野村崎川島野林尾本田 野渡幡藤木内田  
六康文 庄清幸 定雄政義 喜清數龜  
十身雄治一藏助一清吉郎 助藏茂榮 郎衛郎清

**猪苗代**

町會議員

淺酒長遠 松八鹽須  
井井川藤 江子谷田  
甚庄寅染 四彌吉直  
一郎吉三藏 平平郎吉

**川西村**

村會議員

鈴唐大吉關永大渡佐佐山佐  
木司島田口山島邊藤藤内藤  
作光義芳 喜寅友太 代淺勝政  
太郎次雄美 壽八江壽郎助美興

**長塚村**

村會議員

千廣横田吉佐木松 渡相石安  
田田山中田藤幡永邊良田井  
菊勝清久 萬 早克祥  
忠治衛郎造悟廣吉學助已治

**鹿島村**

村會議員

志四佐波 鈴江鶴箱 高佐鈴赤  
賀家藤立 木尻沼崎 萩原木坂  
直重米忠 忠弘民良一  
哉雄治作 傳中美之 雄近界稔

丸鈴小青  
山木林木  
七常平常  
郎三一吉

平町三丁目  
家具漆器筆雜貨  
丸 ほん  
電話三五九番

平町五丁目  
質屋  
植村喜一

平町大工町  
多田井笑次郎  
電話五九一番

平町三丁目  
堀藥局  
電話三二六番

九品寺住職  
遠藤心光  
平仲間町

高久病院  
高久 忠  
平田町

二丁目  
田中銅工所  
田中宣治  
電話五六七番

小松崎本店

平町三丁目  
三井吳服店  
電話三八番

平町一丁目  
飯田近治

平田町  
江口忠一

平新川町  
谷屋吳服店  
電話四三七番

平新川町  
石川屋菓實店  
國井一美

平新川町二四  
木村電氣商會  
電話一七九番

平新川町  
御料理仕出し  
正月屋  
御料理仕出し

平町銀座通り  
黒猫

平町三丁目  
山家メリヤス店

平町三丁目  
横山彰介  
電話九四番

平藝妓屋組合  
平料理店組合

石城郡銀行組合

平町四丁目  
關内藥局  
電話四〇番

平町二丁目  
關彰商店

平町二丁目  
皆川新一商店

好間村  
高鹽市太郎

平町  
旅館組合

根本園茶舖  
和泉屋旅館  
片濱自動車部  
電話二二七番

郡山丸伊吳服店  
社長 今泉 得三

郡山丸伊吳服店

郡山丸伊吳服店

郡山丸伊吳服店

祝 發 展

郡山運送株式會社

郡山倉庫株式會社

郡山商會

渡邊繁太郎  
東京市四谷區大番町八三  
電話 (四谷) 二九〇七

良品廉賣に勝る商略なし  
磐城セメント特約代理店  
金物問屋 釜屋商店  
警城平町五丁目  
電話九番 九九番  
東京振替貯金口座一〇九五六

萩原 申 八

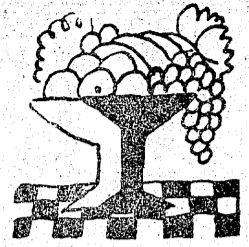
高階 一 郎

杉山 今朝 吉

小田 田 吉 次

浪花炭礦業所  
佐藤 留 藏





### 飯坂の魔クツ界 抱主と酌婦

魔窟街の夜。  
そこには屋敷だけは待合ら變態性の所有者でない限り  
じき何飄家、何本、何鳥、斯うした行爲を好むもので  
何江、何菊だの洋料店らしいないが金にさへなればよい  
く何々軒と軒順に屋の屋敷抱主の強要によつて日夜醜  
を見るに名前だけは一人前業を強いられてゐる女達わ  
の料亭らしく書き並べ申合すが、百圓より多くて三四  
せた様に御料理だの一品洋百圓の借金のため身心共に  
食だのと看板だけはだしてむしばれ行無智なる女達、  
ある看板には偽りありとは彼酌婦の無智につけ入る抱  
このことで料理はつき出し主の不正手段、一見(法律  
の水菓子位で暴利をむさぶ的に見て)合法的なる女達  
つてゐる四十五錢酒、七十の契約證書抱主側の不正手  
錢のビール一皿五十錢の水段が面白い魔窟界に於ける  
菓子など市價からの割出し常套不正の奥の手を次號よ  
は出来ないが酌婦の春を切り明るみに出し讀者諸君に  
り賣りするのが本業だから見えんとする  
色我飢共には文句の言ひ様

### 米國の大博覽會へ

### 絹糸宣傳に

片倉製絲の美しい  
教婦さん渡米

米國のシカゴ大博覽會に婦泰佳代さん(二三) 同森  
我國が國產海外輸出の第一ゆきえ(一九)さんは宣傳  
位である絹糸宣傳のため備用配布する絹ハンカチ百  
から糸になるまでの實演に萬枚を携帯していよゝゝ渡  
派遣されることゝなつた、  
片倉製絲紡績株式會社の教

### 福島市議

### 改選期迫る

福島市會議員強選期も餘選舉気分も濃厚に推移して  
す處一ヶ月になつたので既なる、市民に新人の進出を  
に前哨戦は門始され氣の早待望し同市選舉界は稀る見  
い者は既に非公式ながら立る激戦を豫想されてゐる  
候補の肚をほめめかし漸次

### 玉置會社の招待

### 飯坂温泉へ 千二百名來遊

東京玉置會社にては湯野の各旅館では歓迎に遺  
來る二十八日頃より三日間減なきを其他につき町と協  
千二百名を飯坂湯野温泉に議中である  
招待することになつた飯坂

### 八面觀

▲飯坂町の人は摺上川で結  
つりの名人が多いと聞く  
半五ちゃんばかりは嬉釣  
りば名人だといふ  
▲飯坂町の某町會議員は選  
舉五日前に某有權者中に  
本炭一俵つゝ配らせたと  
の評判であるが事實とす  
れば大問題である  
▲飯坂町の腰辯吏員にして  
不親切極まる者共ありノ  
べさせて置かずに首にし  
ては如何です、同様の吏  
員は澤山遊んで居る當局

### 東白川

宮本村會議員

- 兒玉豊之助
- 鈴木龜吉郎
- 根本啓福
- 鈴木好長
- 西野直三郎
- 水野龜啓
- 久保木三次郎
- 矢内正五郎
- 渡邊綱記
- 岡部兼政
- 大竹平次
- 大竹義貞
- 遠藤國男
- 水野勘解由
- 野崎西次郎
- 森谷義光
- 我妻品吉
- 矢内今朝松

### 祝發展

- 會津沼尻
- 中ノ澤温泉
- 西村屋旅館
- 朝日屋旅館
- 扇屋旅館
- 白城屋旅館
- 花見屋旅館
- 沼尻温泉
- 田村屋旅館
- 岩城屋旅館

### 會津熱塩温泉

- 笹屋本館
- 笹屋別館
- 升屋旅館
- 山形屋旅館
- 吉田屋別館
- 海老屋旅館
- 石川郡母畑村

### 母畑温泉

元湯旅館  
湯源亭

### 双葉館

東白川郡竹貫村  
湯ノ口温泉  
瀧川屋旅館  
阿部勇

### 社告

右本社營業兼記者とし  
て入社致候  
高木喜代治  
右者都合に依り退社致  
候此段謹告候也  
昭和八年五月十日  
東北商工時報社

相馬郡原ノ町  
鍋屋號  
佐藤清四郎商店  
電話五七番

福島縣小高町  
林藥品商會  
電話五三番

双葉郡木戸村  
石川淺次郎

双葉郡木戸村  
渡邊操商店

濱通り第一の靈礦泉  
七濱近郊第一の保養地  
小瀧礦泉  
瀧の湯  
諸病に特効有  
入浴料一日僅か二十錢  
小名濱郊外大原

第一北東  
泉礦ムウジラ  
福島縣石川郡母畑  
母畑元湯  
電話石川五七番  
交通東北本線白河驛より七里同須賀川驛  
より六里列車時刻毎に自動車連絡す